

経営比較分析表（平成28年度決算）

東京都 神津島村

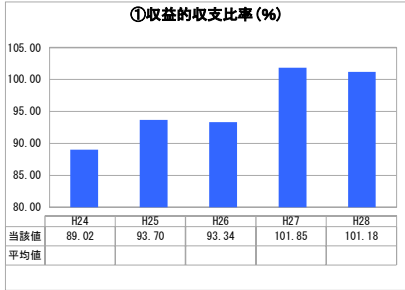
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	95.65	89.11	3,450

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,878	18.58	101.08
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,779	0.41	4,339.02

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



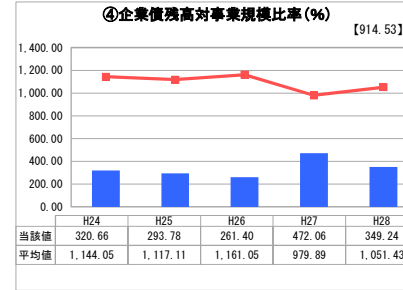
「単年度の収支」



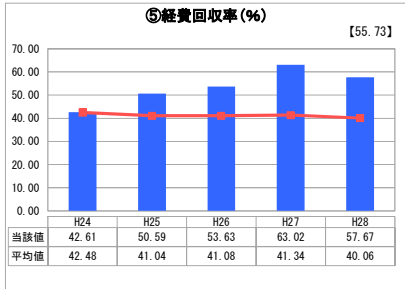
「累積欠損」



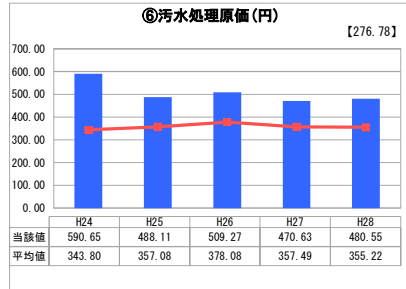
「支払能力」



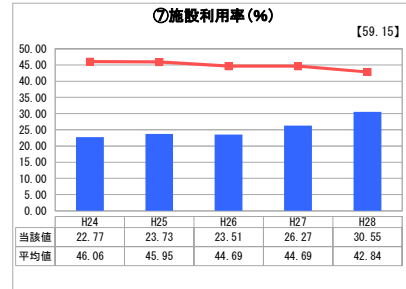
「債務残高」



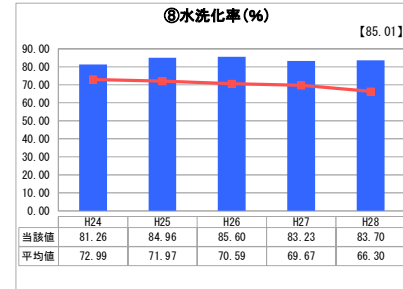
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

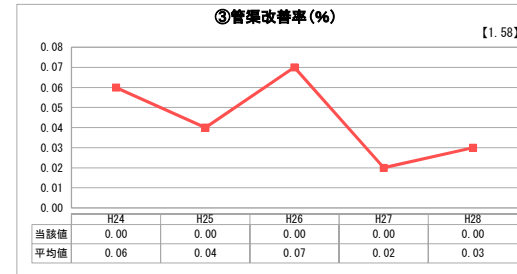
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

修繕・管路布設工事が前年度に比べて増えたため、①収益的収支比率、⑤経費回収率が前年度をわずかに下回ったが、平成27年度の使用料の改定以前よりは高い水準を維持している。施設の老朽化に伴い汚水の処理能力が低下しつつあるため、汚水処理装置を増やしたことにより電気料などの⑥汚水処理原価が大幅に上昇したが、維持管理の検討を行い改善傾向にある。⑦施設利用率については夏の繁忙期に対応した計画処理能力となっていることが原因ではあるが、処理能力の低下を考慮すれば過大スペックとはならない。

2. 老朽化の状況について

平成15年度完成で供用開始から10年以上経過しているため、処理施設の機械設備の補修・更新が年々増加している。耐用年数が15～20年程度の機械設備が多い為、今後数年に集中して補修・更新が起こる見込みである。管渠については地中にあるため塩害を受けにくいことと対応年数が50年となっていることから、修繕については問題視していない。

全体総括

使用料改定により使用料収入は増加したが、供用開始から10年以上経過し機械設備等の故障が頻発している。このため今後の修繕費・更新費の増加が懸念される。また、加入率増加により使用料収入は増加しているが、処理量も比例して増加することから、効率の良い維持管理に努めていくことが重要である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。